

### 患者さんの“できる”を守る 安心安全に過ごしていただくために

医療安全リンクナース 権田公子



当院では、病棟での医療安全活動の中心となり、情報共有や再発防止に努めることを目標に、4年前より医療安全リンクナース会が発足しました。私も3年前より参加しております。



回復期リハビリテーション病棟では、患者様が退院後の生活の場で困らないよう、スタッフ介助や見守りを行いながら、ご本人の力でできることを少しずつ増やしていく支援をしています。

しかし、活動を広げることには『転倒転落』『誤嚥』『内服忘れ』などのリスクが常に伴います。

一方で、安全を重視しすぎて行動を制限すると、ADL（日常生活動作）の低下や廃用の進行につながり、患者様の自立に結びつきません。

そのため、患者様の自立や在宅復帰に向けて、無理のない活動の広げ方を丁寧に考えながら支援しています。スタッフ同士で些細なヒヤリハットも共有し、安心して過ごしていただけるよう再発防止に取り組んでいます。

回復期リハビリテーション病棟では、患者様のADL向上に伴い活動量が増えるため、転倒転落リスクが高くなります。

回復期の転倒転落リスクは急性期の3倍ともいわれています。

また、脳血管疾患や大腿骨頸部骨折の患者様が多く、DVT（深部常務薬血栓症）や入浴時の血圧変動、意識レベルの変化など、急変につながる徴候を見逃さない観察が求められます。

嚥下機能に障害のある患者様では、誤嚥性肺炎や窒息のリスクが高く、食事介助の姿勢やペース、食事形態の調整など、細やかな安全管理が欠かせません。



患者様の「できる」を  
一つでも増やし、  
安全・安心な入院生活  
を支えていきます。



# 感染対策は 自分と周囲を 守ってこそ

～夏の食中毒に注意～

感染リンクナース 安部 椿



食事は、  
入院中の楽しみの一つです。

差し入れをされる  
ご家族のお気持ちも、  
私たちにとって大切なものです。

一方で、夏は食中毒に  
気を付けたい季節でもあります。

気温と湿度が高くなる夏は、食中毒菌が繁殖しやすく、毎年多くの食中毒が発生しますので、患者様が安心して食事やリハビリに取り組めるよう、差し入れや食べ物の管理にご協力をお願いいたします。

ご家族のお気持ちに感謝しながら、食事の楽しみと安全の両方を大切にしていきたいと思っております。

## 夏の食中毒 3つの決まりで防ごう!!

① ばい菌をつけない

手や食べ物は、しっかり洗おう。

② ばい菌を増やさない

生もの、料理は早めに食べよう。

③ ばい菌をやっつける

料理はしっかり加熱しよう。



当院では、患者様が残された機能を回復し、これからの生活につなげていけるよう、365日リハビリを提供しています。

食中毒が起こると、リハビリに制限が生じることがあり、思うように進められない場合があります。そのため、差し入れの内容を確認させていただくことがあります。

また、食中毒だけでなく、感染予防のためにも手洗いや手指消毒は大切です。

当院では定期的に確認と研修を行い、職員一人ひとりが感染の発生や拡大を防げるよう取り組んでいます。

持ち込まない・持ち出さないを意識して、これからも一緒に取り組んでいきましょう。



# 家族みんなで守る夏の健康

## 室内でできる熱中症予防

—衛生委員会から—

7月は一年の中でも特に気温と湿度が高く、熱中症のリスクがぐっと上がる季節です。

屋外だけでなく、室内でも発生するため、日頃からの対策がとても大切です。

今年も元気に夏を乗り切るために、ポイントをおさらいしましょう。



### ちょっと豆知識

#### ● 熱中症は“湿度”が大きく関係しています

気温がそれほど高なくても、湿度が高いと汗が蒸発しにくく、体に熱がこもりやすくなります。

実は、梅雨明け前後が最も危険と言われるのはこのためです。

#### ● コーヒーやお茶は水分補給にならないことも

カフェインには利尿作用があるため、飲みすぎると逆に水分が失われることがあります。水や麦茶を基本にすると安心です。



#### ● 室内熱中症は高齢者に多い傾向

「冷房が苦手」「もったいない」とエアコンを控えることで、気づかないうちに体温が上昇してしまうケースが増えています。



シロクマさん 熱中症

#### ■ こまめな水分補給を

のどが渇く前に、少しずつ水分をとるのがコツです。汗と一緒に塩分も失われるため、長時間の作業や運動時にはスポーツドリンクなども効果的です。



#### ■ 室内環境を整える

- ・エアコンや扇風機を上手に使い、室温28℃以下を目安に
- ・遮光カーテンで直射日光をカット
- ・サーキュレーターで空気を循環させると効率アップ



#### ■ 服装を工夫する

通気性の良い素材や、汗を吸いやすい服を選ぶと体温がこもりにくくなります。外出時は帽子や日傘も有効です。



#### ■ 体調管理を忘れずに

睡眠不足や朝食抜きは熱中症のリスクを高めます。「なんとなくだるい」「頭が重い」などのサインを見逃さず、無理をしないことが大切です。

最後に

熱中症は、正しい知識と少しの工夫でしっかり予防できます。

自分のためにも、周りの人のためにも、日頃から意識して暑さと上手につき合っていきましょう。



# フレッシュ紹介



様々な分野で学べる  
点に魅力を感じました。

頼れるセラピストに  
なりたいです。

丁寧な  
声掛けを  
心がけています

寄り添える  
セラピストを  
目指します！

リスク管理を  
心掛けています。

相談しやすい  
職場です。

笑顔で接する  
職員の姿に  
感銘を受けます。  
暖かい職場です。

## 2025年度地域貢献活動

活動区分	内容概要	実施件数
地域健康講座	地域高齢者の健康維持・増進を目的に、健康知識の普及と体操教室を実施	6件
地域ケア会議	地域高齢者や要支援者の個別事例の生活課題を多職種で共有し、適切な支援方針を検討する会議を実施	7件
児童支援訪問	支援が必要なお子様の集団生活適応を支援 保育園等で保育士へ専門的アドバイスを提供	8件
教育機関との連携	大学にて非常勤講師として、療法士育成に貢献	15件
社会復帰支援	受刑者の生活支援・社会復帰を目的に、リハビリや生活指導を実施	24件



## 七夕行事食

7月7日の七夕に合わせ、七夕そうめん、かき揚げ、手作りの七夕ゼリーを提供しました。そうめんは天の川をイメージし、星形のにんじんを添えるなど、見た目にも七夕らしさを感じていただける献立としました。

患者様からは、「そうめんが美味しい」「ゼリーがさっぱりしていて食べやすかった」といったお声のほか、「献立をよく考えてくれていると感じた」との嬉しいご意見もいただきました。今後も、入院中でも季節の移ろいを感じていただけるよう、給食委託会社の皆さまと協力しながら、心に残るお食事の提供に努めてまいります。 <栄養科>

